

TOPIC

## 令和6年能登半島地震に対する本学の対応について

令和6年1月1日(月)16時過ぎに石川県の能登地方を震源とした最大震度7の大きな地震(令和6年能登半島地震)が発生しました。本地震で犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、多くの被災された方々へ心よりお見舞いを申し上げます。

本学では発災以降、附属病院長の指揮の下、災害医療部が事務局となり、医療支援体制を構築してまいりました。

厚生労働省からの要請を受けて、1月5日(金)を皮切りにDMATロジスティックチーム、DMAT6次隊(第1班、第4班)、DPAT(災害派遣精神医療チーム)をこれまでに延べ医師13名、看護師7名、業務調整員4名派遣予定です。また、災害リハビリテーション支援協会(JRAT)からの要請を受けて医療技師延べ2名を派遣しました。現在も現地で活動支援を続けております。

甚大な被害がもたらされた被災地では、ライフラインが寸断された過酷な環境の中での避難生活の長期化により、被災者の健康状態の悪化も予想され、医療支援体制立て直しに向けて今後も長期的な支援が必要な状況です。



2011年3月に発生した東日本大震災において、多くのご支援が福島県の復興の大きな力となりました。本学におきましても、被災者の方々への医療支援や健康管理など、本学の持つ知見と経験を最大限生かした支援を可能な限りお届けしてまいります。

被災された方々の安全と被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

HPでも  
紹介しています



TOPIC

## 大谷翔平選手からグローブが 福島県立須賀川支援学校医大校に届きました!

メジャーリーガーの大谷翔平選手が国内の小学校に寄贈したグローブが、福島県立須賀川支援学校医大校にも令和6年1月5日(金)に届きました。

「野球しようぜ!」と綴られたメッセージと共にグローブは、1月9日(火)の始業式に同校児童にお披露目され、児童はグローブを手にはめて大スターからのプレゼントに

大はしゃぎでした。

グローブは、体育の授業や休み時間に児童同士や先生とのキャッチボールなどで使用しています。児童は「大谷選手からのプレゼントが嬉しい。みんなとグローブを使っていきたい」と顔をほころばせます。

また、1月31日(水)には本学附属病院みらい棟イベントホール“フォレストきびたぎ”



医師とのキャッチボールの様子など

で本学附属病院小児腫瘍内科佐野秀樹医師らとのキャッチボール企画が開催され、参加者全員で楽しみました。

## 県内初! となる減量・代謝改善手術を行いました

本学附属病院消化管外科、糖尿病内分泌代謝内科は、令和6年1月に福島県内初となる「減量・代謝改善手術」を行いました。

肥満を伴った糖尿病の方では、減量・代謝改善手術が薬物療法に比較して長期成績が優れるという臨床成績が示されており、減量・代謝改善手術は、病的肥満の治療としてだけでなく、糖尿病の治療としても極めて注目されています。

今回実施した術式は、胃を切除して食欲を抑制する「腹腔鏡下スリーブ状胃切除術」です。減量・代謝改善手術の中で最も多く行われ

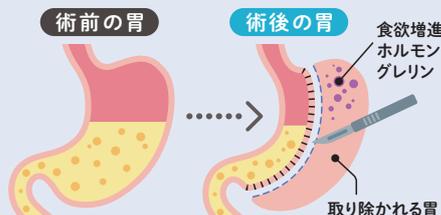
ている術式で保険診療が認められています。消化管外科学講座の河野浩二主任教授は「投薬治療や食事療法よりも胃切除術の方が症状をうまくコントロールできるとの研究結果が世界中の臨床試験で確認されている」と手術の有効性を述べます。

また、糖尿病内分泌代謝内科学講座の島袋充生主任教授は「一度の手術で通院の手間が省ける。体への負担も少なく、まさに画期的と言える」と述べます。

本県は、元来、糖尿病の罹患率が高く、しかも

震災以降に増加傾向にあります。本学附属病院消化管外科、糖尿病内分泌代謝内科は、今後も減量・代謝改善手術の実績を積み重ね、よりよい減量・代謝改善治療を提供してまいります。

### 胃切除術のイメージ



### TOPIC

## ようこそ! 未来の医療従事者たちへ~Medical touch2024



令和6年1月20日(土)と21日(日)の2日間、ビッグパレットふくしまで開催された「ふくしま

SDGs未来博(ふくしまSDGsプロジェクト推進コンソーシアム主催)」において医療体験コーナーを提供しました。SDGsに掲げる「すべての人に健康と福祉を」の実現を見据え、子どもたちに医療への関心を高めてもらうのが目的です。

当日、会場には神田産業株式会社が開発した段ボール製パネル組立型ER(救急救命室)を設置し、可能な限り実際の医療現場を再現しました。

無影灯の下で、本番さながらの装備での電気メス、クイズ形式での体験と超音波検査装置操作体験を行い、2日間で約300名に参加いただきました。

2日間にわたりブース運営いただきました、臨床工学センター出羽技師長以下3名の技師の皆様、本学サークル「PR-Lab」13名の医学部、看護学部、保健科学部の学生の皆様により感謝申し上げます。



### TOPIC

## 県北地区の小学4~6年生を対象とした野球肘検診を実施しました

本学医学部整形外科学講座、スポーツ医学講座、一般社団法人福島県理学療法士会スポーツ活動支援委員会からなる「メディカルサポートチーム」は、令和6年1月6日(土)に学童野球やソフトボールに取り組む県北地区の小学4~6年生を対象とした野球肘検診を本学8号館で実施しました。

野球肘の症状が現れやすい年代を検診し、早期治療やケガの予防につなげるため、毎年

検診を実施しています。

当日は、医学部整形外科学講座の加藤欽志講師、附属病院栄養管理部の一ノ瀬仁美副主任栄養技師、県理学療法士会理事を務める附属病院リハビリテーションセンターの嶋原智彦主任医療技師らが講師を務め、児童約100人の参加がありました。

参加した児童は、投球動作や体の構造など肘や肩に障害が生じる原因を学んだり、肘の

エコー検査を受けたりしたほか、力を発揮するためにはバランスの良い食事が重要であることなどを学びました。



### ① INFORMATION

## 2024年福島県立医科大学「県民健康調査」国際シンポジウム「東日本大震災 ふくしまの学びを日本・世界へ」を開催します

本学放射線医学県民健康管理センターは、令和6年3月2日(土)に2024年福島県立医科大学「県民健康調査」国際シンポジウム「東日本大震災 ふくしまの学びを日本・世界へ」を開催します。

6回目となる今回は「県民健康調査」から得られた成果等を通して、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の影響や復興の現状等を国内外の方々に理解していただけるよ

う、初の試みとしてメイン会場を東京、サテライト会場を福島に設置し開催します。

前半では、調査開始からの12年間で得られた科学的知見等について最新の情報も含め紹介します。後半では、得られた知見等をどう活かすかという観点から、現在取り組んでいる研究や活動について今後の展望も踏まえて発表・討議を行います。

当日は会場参加とオンライン(Zoom)を併用したハイブリッド方式にて開催します。どちらも事前申込制となりますので、参加をご希望の方は以下のQRコードよりお申し込みください。

詳細はこちらから ▶▶▶

※申込み締切日2月21日(水)

